線形代数 II 計算練習ドリル

担当:大矢 浩徳 (OYA Hironori)

- ◆ 代数学 I の成績は中間試験 40 %, 期末試験 40 %, レポート 20 %の配分で付けられる. 出席等は考慮されない. (『2019 年度線形代数 II 履修上の注意』参照.)
- 期末試験の問題は大問が計 5 つで,問 $1\sim4$ がレポート課題・計算練習ドリルの類題 (90 点分) であり,問 5 が予告無しの問題 (10 点分) である.問 $1\sim4$ のレポート課題の類題は第 1 回から第 6 回の内容が 万遍なく出題される.なお,第 6 回のレポート課題の解答は 11 月 14 日 17:00 に 11 Scomb および私の個人ホームページにアップロードされるので確認すること.
- 今回中間試験で出題される問題には「答えのみでよい」というものが多数あるが、これは「答えのみを 採点の対象とし、部分点は与えない」という意味を含んでいるので、正確に計算できるように本プリン ト等で十分に練習すること。また、検算可能な問題は検算をすること。

問題 1. 次の行列式の値を求めよ.

問題 2. 以下の行列 A の余因子行列 $\stackrel{\sim}{A}$ を求めよ、また、 A^{-1} が存在する場合その具体形を求めよ、

$$(1) \quad A = \begin{pmatrix} -8 & 2 \\ 3 & 7 \end{pmatrix} \quad (2) \quad A = \begin{pmatrix} 0 & -4 & 2 \\ 2 & -3 & -3 \\ -1 & 2 & -1 \end{pmatrix} \quad (3) \quad A = \begin{pmatrix} -1 & 1 & 1 \\ -1 & 1 & -1 \\ 2 & -2 & -1 \end{pmatrix} \quad (4) \quad A = \begin{pmatrix} -2 & -2 & 2 & -1 \\ 0 & 2 & 1 & -3 \\ -3 & -3 & -3 & -1 \\ -1 & 1 & 0 & -3 \end{pmatrix}$$

問題1解答.

 $(1) \quad -18 \quad (2) \quad 0 \qquad (3) \quad -89 \qquad (4) \quad -32 \quad (5) \quad 248 \quad (6) \quad -12 \quad (7) \quad 120 \quad (8) \quad 0$

(9) 1 (10) 0 (11) -56 (12) 330 (13) 48 (14) 0 (15) 0

注意 1.

• (6), (7) は適切に行を入れ替えると, 三角行列(対角行列)にすることができるので, 交代性と「三角行 列の行列式は対角成分の積」を用いれば容易に計算できる.

● サイズが奇数の交代行列の行列式の値は 0 である ((8), (10)). 証明は第 3 回レポート課題問題 2(2) の 解答例を参照のこと. ただし、サイズが偶数だと0にはならないので注意((9)).

• (11), (12), (13) は上手く余因子展開すれば簡単に計算することができる.

(14) は各列の和が 0 になるので行列式の値が 0 となる. 第 2 回レポート課題問題 1(2) 参照.

問題 2 解答.

(1)
$$\widetilde{A} = \begin{pmatrix} 7 & -2 \\ -3 & -8 \end{pmatrix}$$
, $A^{-1} = -\frac{1}{62} \begin{pmatrix} 7 & -2 \\ -3 & -8 \end{pmatrix}$

(2)
$$\widetilde{A} = \begin{pmatrix} 9 & 0 & 18 \\ 5 & 2 & 4 \\ 1 & 4 & 8 \end{pmatrix}$$
, $A^{-1} = -\frac{1}{18} \begin{pmatrix} 9 & 0 & 18 \\ 5 & 2 & 4 \\ 1 & 4 & 8 \end{pmatrix}$

$$(3) \widetilde{A} = \begin{pmatrix} -3 & -1 & -2 \\ -3 & -1 & -2 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}, |A| = 0 なので、 A^{-1} は存在しない$$

問題 2 解答.

(1)
$$\widetilde{A} = \begin{pmatrix} 7 & -2 \\ -3 & -8 \end{pmatrix}$$
, $A^{-1} = -\frac{1}{62} \begin{pmatrix} 7 & -2 \\ -3 & -8 \end{pmatrix}$

(2) $\widetilde{A} = \begin{pmatrix} 9 & 0 & 18 \\ 5 & 2 & 4 \\ 1 & 4 & 8 \end{pmatrix}$, $A^{-1} = -\frac{1}{18} \begin{pmatrix} 9 & 0 & 18 \\ 5 & 2 & 4 \\ 1 & 4 & 8 \end{pmatrix}$

(3) $\widetilde{A} = \begin{pmatrix} -3 & -1 & -2 \\ -3 & -1 & -2 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$, $|A| = 0$ なので、 A^{-1} は存在しない。

(4) $\widetilde{A} = \begin{pmatrix} -1 & 41 & 13 & -45 \\ -1 & -31 & -11 & 35 \\ 2 & -2 & -2 & 2 \\ 0 & -24 & -8 & 24 \end{pmatrix}$, $A^{-1} = \frac{1}{8} \begin{pmatrix} -1 & 41 & 13 & -45 \\ -1 & -31 & -11 & 35 \\ 2 & -2 & -2 & 2 \\ 0 & -24 & -8 & 24 \end{pmatrix}$

注意 2. 余因子行列 \widetilde{A} の (i,j) 成分は A の(j,i)-余因子であったことに注意する. ((i,j)-余因子の定義は例え ば第3回レポート課題解答を参照のこと.) また, $A\widetilde{A} = \widetilde{A}A = |A|I_n$ なので, $|A| \neq 0$ のとき,

$$A^{-1} = \frac{1}{|A|}\widetilde{A}$$

である.